

私が通っていた小学校は外国籍の生徒が多く、  
 生徒間で言語が通じないことが多くあり  
 ました。ですが、多くの生徒がそこで互いを  
 否定、拒絶するのではなく、積極的に交流を  
 図ろうとしたところが母校の長いところだと  
 今では思います。

現代社会では国家や人種の間での争いが絶え  
 ません。争いの要因が単純でないことを理解  
 していても、やはり私たちは平和であることを  
 を強く望みます。では、少しでも平和に近づ  
 ぐにはどうするのかが良いのではしょう。私は人  
 種や国を超えて積極的に交流あることが必要  
 だと、小学校での経験から今はそう考えます。  
 交流によって平和が実現されることも、交流が  
 なければ平和を実現するのは難しいです。か  
 らして私は派遣生としてオーストラリアの  
 人々との交流を通して互いの文化や歴史を理  
 解すると同時に、多くの人が海外の方と  
 交流する機会を持つことができたらいいで  
 す。

最後、私は派遣生として内定するまでに  
多くの人に支えられてきました。母や友人、  
習い事や学校の先生方だったり、青少年期外  
派遣事業に携わる方々がいたからこそ、この  
プログラムに応募して、派遣生に内定することが  
できました。支えてくれた方々への感謝  
を忘れずに環境への感謝を忘れることなく、私に  
できることを精一杯頑張ります。